

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	条里南庁舎 講堂
日 時	令和7年4月14日（火） 18：30～20：00
参加者数	59名

No.	項目	内容	市長の発言
1	少子化問題	結婚しても、子どもを産まないという考えの方が居る。子どもを増やすための取り組みをするべきと考える。	横手においては、ある一定の所得を超えると子どもが産まれる数が増える。既に結婚されている方で子どもが欲しいと思う比率は非常に高く、一人出産すればもう一人欲しいと思う方も多くいる。 世帯あたりの所得が著しく低いと一人以上は育てることが叶わないと思う方もいるが、夫婦の所得に加えて、祖父母の所得もあてにできる世帯だと二人は子どもが産まれていたりする。 結婚をしたら子どもが欲しいと考える人は多いので、男性の家事がもっと協力的である等、様々な子育てをためらう事象を一つ一つ無くしていけば黙っていても出生率が増加傾向に導かれると考える。
2	図書館	県立図書館は子供用の外国の絵本などが多数あるが、横手の図書館はほとんどない。子どもの教育面でも外国の絵本などがあればよいと考える。	ご意見として受け止める。早速図書館に伝えたいと思う。
3	Aターン	都会と横手では給料面でも差があるので、Aターンで戻ってきて祖父母と暮らす人には1カ月10万円を出すなど、大胆なことをしないと人は戻ってこないと思う。	全員ではないが、例えば農業創生大学校の受講生など、祖父母の実家の農業を継ぐために戻ってくる方がいる。 農業は都会の生活とは真逆の暮らし方だと思うので、都会にはない暮らしに興味がある方の需要をしっかりと受け止めていける横手でありたいと思う。
4	子育て支援	秋田県内でも子育て支援を手厚くしていただいたことに御礼を伝えたい。保育料の無償化、産後ヘルパー制度等、昨年よりも実行していただいた政策があった。	子どもは地域の宝なので、今後もやれる範囲の中でやっていきたい。子どもが、厳しい見通しのきかない社会でどう世界が動こうともしっかり地に足をつけて、歩んでいけることが親として一番心配な点であるので、子育て支援もそうだが、教育の充実も図ってまいりたい。
5	企業	高校2年生を対象にすごい企業を発見するという機会があることを初めて知った。高校2年生だけでなく、中学校3年生や高校1年生など幅広い世代に発信していただければ、親世代として嬉しい。 地元の企業を知らない保護者もいると思うので、保護者が参加できるようにしても面白いと考える。	保護者の方も参加できる仕組みについては、企業に対しても話をしている。 保護者の方が理解できていない会社には子どもを行かせるというのは難しいと思っているので、やはり保護者の皆様にも理解いただくことが大事と考えている。 そういう機会を設ける努力はしたいと思うし、提案もさせてもらいたい。 事業のタイトルが違うが、高校2年生以外の市内の小中学校の生徒を対象とした似たような企業説明会を行っている。また、保護者の同伴も可としている。
6	市政懇談会	横手の未来の話や現状が聞けるため、毎年懇談会を楽しみにしている。子どもがまだ小さい世代の方や休日にも部活動等で来れない方もいると思うので、YouTube等で閲覧できる機会があれば、もっと横手に関心をもってくれる人も増えると思う。	例年YouTubeに市政懇談会の様子を掲載している。 ぜひご確認いただければと思う。

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	条里南庁舎 講堂
日 時	令和7年4月14日（火） 18：30～20：00
参加者数	59名

No.	項目	内容	市長の発言
7	少子高齢化	40年～50年前は3世代で住んでいる家族が多く、元々の家もあるので比較的給料が高くない家庭でも子育てをすることができた。しかし、現在は二人で結婚して家建てる家庭も多く、子どもを産む余裕がないと考える。3世代住宅に補助を出すという方針はないか。	まさにお話のとおり、家族で助け合って暮らすことは、いざというときに困難を乗り越えられるし、経費の分担もバラバラで暮らすよりはよいと考える。しかし、昨今なかなか折り合いを付けて多世代で暮らすことを、すべての家族ができていくかという難しいことなので、どうしても世帯が分離されてしまうという現状は実際にある。政策として3世代同居の方向に持っていくのは難しいが、ご意見に同調する部分もある。
8	北上線100周年	北上線100周年の記念をどのように考えているか。 （再質問） 北上線だけでなく全体で乗車人数がかなり少なくなっており、北上線を観光化するべきと考える。春といえば北上は展勝地の桜だったり、横手は横手城だったりでも、いろいろイベントを行い、比較してもらい、北上と横手を行き来させるための提案をする。 （再質問） 蒸気機関車を走らせるのは、難しいか。蒸気機関車と桜というのも絵になると思う。 （再質問） レトロの方が面白いと思う。撮り鉄や乗り鉄が来るかもしれないと思った。	・かまくら祭り際には、花巻空港から北上駅、北上線に乗って横手市まで、という観光ツアーもやらせていただいた。また、既に終了してしまったが、高橋優さんの絵をデザインした切符をもらえるイベントを行うなど、諸々のイベントを小出しに行っている状況である。乗っていただいてなんぼなので、乗っていただいて結果を出すという努力をしまいたいと思っているし、利用促進のイベントは打っている。 ・まだ北上線に乗ったことがないという横手市民もおり、令和5年11月9日から11月12日の間、無料で北上まで乗車できるというプランを行ったところ相当なお客様が乗られた。もちろん観光景色も大事なので、北上線沿線の風景を展示するなど、関心を持っていただくための取り組みはささやかながら行っている。北上線は大事なインフラであり、横手の財産だと思っているので、粘り強く提案・要求をし、我々も独自で沿線自治体と協力しながら賑やかし、皆様が乗りたいと思えるような提案は前向きにしまいたい。 ・絵になると思う。機会があればそういう提案もしたい思う。「四季島」（旅客列車）のようなものも北上線に通してほしいと提案はしている。 ・イベント列車のような珍しいものに関しても機会があれば提案させていただく。
9	市民会館	市民会館はできるのか。	実現に向けて、今足元を固めているところである。当初の想定よりも月ごと週ごとに資材等の価格が高騰しており、青天井を追いかけるのは危険ということで一旦休止とさせていただいた。現在土台となる出発資金を積み立てており、自前の予算と国・県からの有利な財源を頂戴できた暁には即スタートさせたいと思っている。 ふるさと納税などもブラッシュアップし、気に入っていただけるものをもっと創出して、今まで以上の軍資金の調達を頑張って、実現に向けて整えてまいりたいと思う。

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	大森地区交流センター 視聴覚室
日 時	令和7年4月15日（火） 18：30～20：00
参加者数	26名

No.	項目	内容	市長の発言
1	道路舗装	大森保育園で災害が起きた場合大森小学校へ避難することとなっているが、昨年、避難する道路の舗装が壊れていてリヤカーを押しても溝にはまって動かないと相談したところ、3月末に行っていただきお礼を申し上げたい。欲を言えばもう少し延長をしていただきたいと思う。	道路（舗装）の延長については、優先順位を見極めて検討させていただく。
2	Aターン	少子化や人口減に対して、少子化に関しては保育料の無償化や児童センターなどいろいろ取り組んでくれているので、その前段階の横手から他県で就職し子どもを産んだ方やふるさと会などそういう方にポイントを絞ってAターンを進めるようにしてくれたらよいと思う。	移住のターゲットについては、お墓や空き家等の横手に権利を有する方が戻ってきていただくと助かる。里帰りをした際には、横手市の暮らしやすさをもう一度考えていただき、子育てをしやすいのは東京より横手市かなと思ってもらい、この地に定着していただければ非常に嬉しい。 横手市に戻ってきて農業創生大学校で勉強し、祖父と農業をするという事例もある。ご高齢世帯のみで農業をしている方々に対して誘えば来るかもしれないという紹介をして背中を押したいと思っている。 ターゲットをしっかりと見極めて、そそるような情報を届ける努力が非常に大事だと考えている。知らないから、受け皿がないから来ないというのは非常に残念なので、しっかり情報発信を行い、我々はウェルカムという姿勢を示して二人、三人と引き寄せてまいりたいと思っている。

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	山内地区交流センター ホール
日 時	令和7年4月16日（水） 18：30～20：15
参加者数	61名

No.	項目	内容	市長の発言
1	女性の働く場	工業団地の設備拡大の話があったが、ここに来るのは自動車関連設備の工場が多い。これはどうしても男性が中心になってしまうと思うが、女性の働く場はどうするのか。	工業団地について、自動車関連企業等に、沢山来ていただいているが、最近は男女は全く関係ない。特に、今工業団地に進出してきている大手企業は正にそうである。 本社に行った際は様々な機械・材料があり、いろいろな工程がある中で、若い女性の方が説明し案内をしてくれて、受け答えも工場長レベルだった。工業で油まみれで危険で重くて疲れるといったイメージが一転して、先進的な工場は新しいスタイルになっていると感じる。 採用が全員女性でも構わないし、それでもやっていけるというような状態であると感じている。 このような会社も横手市に存在しており、一昔前とは変わってきてはいるが、それでも全く満足はしていないので、これからもっと良くしていきたいと考えている。
2	中山間地農業	中山間地農業の話題にも触れていたが、山内のように山あい村でも中々大変であることを考えていただきたい。	・電気柵は中山間地を意識しての取り組みである。何とかこの山間地域の農業をしっかり守っていかないといけないと思う。 ・まさに、クマ、シカ、イノシシの出没が関係しているが、全部が耕作放棄地になってしまったら、それこそ社会問題級の大変な時代になると思う。 農家は農地を産業として守るのと、環境として守るのと両面で地域を守ってくれている。その地域に住んでいる消防団とか、町内会員とか、一人何役もこなして農業もやりながら暮らしていただいている方が、その中山間地域に住んでいるということそのものが、もう既に福祉であり、立派な地域作りの拠点根幹になっていると思っている。農業という支援をしながら、地域を守っていただいているという視点で、平場の広大な農業をやっている方よりも別の特典をつける支援等、そういうことも意識しながら取り組んでまいりたいと思う。
3	共有林	この数年で、熊、ニホンジカ、猪が随分増えており、農作物への被害もかなり出ている。電気柵の話もあったがこの辺りをもう少しPRしてほしい。	・昨年度、市内の山林の一部について鮮明な航空写真を撮らせていただいた。所有者もどこまでが自分の山か分からない方も多く、所有者が既に住んでいないこともある。境界が決定できる部分は立会いのもと決めていき、地道に林業対策に取り組んでみる。
4	敬老事業	横手市全体で敬老事業を行わなくなり、今年で3年になるが私の地域では行っている。敬老事業を行うと団体で5,000円、参加者一人に300円が交付されるが、これではおにぎり二つも買えない。ぜひ最低でも500円位にいただき、全体に対する助成金も10,000円にするなど、お願いしたい。	敬老事業を活用いただき感謝する。しっかり意見を受け止めさせていただいた上で、まだ事業を活用していない、知らない地域があるので利用していただきたい。我々も地域団体の方々に広く周知を行っているが、ぜひ皆様から多くの方に宣伝いただく方が敬老会よりも効果があると思っている。 今2割しかいない利用者が3割4割5割と増えてくださればいいなという狙いもあるので、ぜひ広くご活用いただければと思う。
5	企業	誘致企業は誘致企業で結構だが、元々地域にある零細企業や個人事業主の方が圧倒的に多い。この方々に対する応援もぜひ講じていただきたい。	地域に根ざして長年頑張っていたいただいている企業ももちろん応援させていただいている。情報が探せない見いだせないという企業には情報を提供したり、人が獲得できないという企業には商工観光部の職員が高校と一緒に出向き説明をしたりしている。企業のネットワークでは限界があるとか、マンパワーでは限界があるという企業に、お願いされれば市役所がお手伝いするというスタンスでいるので、相談をいただければ一緒に悩みたいと思う。このスタイルでこれまでも取り組んできたし、これからも取り組んでまいりたい。

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	山内地区交流センター ホール
日 時	令和7年4月16日（水） 18：30～20：15
参加者数	61名

No.	項目	内容	市長の発言
6	情報開示 請求	立派な図書館ができたが、あの図書館でデジタルで公文書の開示請求等を見れるようにしたらいいと思う。	開示請求は市民の権利であり、どなたでもできる。監査請求も誰でもできる。 公文書のデジタル化について、ずっと保管しておくべき文書については公文書館で少しずつデジタル化を進めているが、1枚1枚を何万ページという膨大な量をデジタル化することは現実的に無理かと思う。現在、はるか昔のデータから取り掛かっているところである。
7	葬儀屋	葬儀ホールから火葬場に移動する際に心づけで10,000円取られるが、火葬代は別途で市役所にお支払いしている。	心づけというものが、どのような類のものか承知していない。斎場の使用料は利用された方が払うべきだと思う。

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	浅舞地区交流センター 多目的ホール
日 時	令和7年4月21日（月） 18：30～20：15
参加者数	49名

No.	項目	内容	市長の発言
1	市報の配布方法	現在は各地域・各班の行政に委託された方が配布する仕組みだが、最近が高齢化に伴い高齢の夫婦や一人で住んでいるという方々が増えている気がする。班長になると市報等を配布しなければいけないが、高齢の人が転んで骨折してしまうなどのリスクがだんだん増えていくと思う。 この先一年、二年の話ではないが、今の配り方でこれからも続けていけるのか考えていただき、高齢化に即した方法をしていただければありがたい。	まさに高齢化はどの地域でもそのとおりであり、私の住んでいる町内会でも同じ話題が出た。ほとんどの地域で65歳以上はまだまだ青年部範疇な状況であり、そもそも転ばない強靱な体づくりを推進するため、現在、健康の駅などの取り組みもしている。また、若い方も町内にいると思うので、町内活動に積極的に参加いただけるよう、町内でも促していただきながら対応していくしかないと思う。 時代に合った考えだと、広報紙ではなくインターネットで、携帯で情報を届けてほしいという方も出てくるかもしれない。いきなり全部インターネット配信で情報を届けるとなかなかご理解いただけない方もいると思うので、この辺りは適宜そのような課題があることを受け止めながら取り組んでまいりたいと思う。 配布の仕方というのはご意見として受け取り、検討させていただく。
2	ワクチン接種に係る補助金	先日带状疱疹ウイルスの予防接種の案内をいただいたが、自分は過去に既に行っている。そのときに、補助金があれば助かるなと思った。今、補助金が出たので皆さんにもやってもらいたいと思う。 コロナのワクチンも8回行ったが、高齢者に対してのワクチンの助成金というのは、もうないのだろうか。	コロナウイルスについては、現在感染症5類となり他の風邪やインフルエンザと同じカテゴリーになった。だんだんその他の感染症やインフルエンザと同じ形の接種の仕組みと同じスタイルになっていくと思う。 また、带状疱疹については遅ればせながら、全額補助ではないが現在補助が出ている。1回打てば長期間心配がなくなるので、特に高齢の方には接種していただきたいと思う。
3	高齢化	私の部落も独り身の方が結構いる。 一人暮らしで家から出てこない人は非常に心配になるし、二人暮らしをしていても、高齢で片方がぼけかけているとかなり難儀している。民生委員はいるが民生委員もかなり忙しくそのことだけに対応してられないと思うので、市でもそのような人たちを見守るとかももう少し気にかけてくれないかと思う。	やはり高齢独居、高齢夫婦の二人暮らしは増えてきており、市でも意識して、地域共生社会ということを福祉的な目線で掲げている。見守る人、見守られる人は同じ地域に住んでいるので、そこはお互いに尊厳を大事にしながら共生していくということを掲げている。まさに今、高齢化率42%を超えても地域が保っているのは地域の絆で何とかという状況だと受け止めている。 現在、同じ課題を感じており、地域で見守る人、見守られる人も一緒に協力し合い、支え合いながら暮らしていこうという促しを意識して取り組もうと思っている。 なかなか誘われないと足が重い、前に出ない方もいるので、とにかく呼びかけ合うということを大事にしていく社会にしていかなないと、この高齢社会を乗り切っていくのは行政だけでは難しいと思っている。 市としても、地域に促す社会運動的な部分に力を入れてまいりたい。
4	公共交通	人生100年時代ということで、車社会の秋田県も高齢化していくと交通事故や免許返納が問題になってくると思う。 横手は循環バスが通っているが、その他の地域は循環バスがない。在宅では生活がままならない方もいると思うので、公共交通などを便利に使えば良いと思うが、その辺りはどのように考えているか。	これだけ土地が広くいろんなところに住民の方が暮らしている横手市なので、電車が全地域に張り巡らされているわけではなく、まさに車頼みの社会構造になっている。高齢で免許返納された方の足がないことは課題である。 現在、バスとタクシーを合わせてデマンド交通という交通弱者を支える取り組みがある。循環バスも羽後交通さんしかないので、調整しながら路線バスが走っている場所と重ならないようにバスルートを決めさせていただいた。 しかし、これも完璧に機能しているわけではなく、都度様々な交通会社と協議しながら微調整を図って、今よりも来年、再来年がいいものになるよう努力をしており、制度としては整えている。今後も改良してまいりたいと思う。

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	浅舞地区交流センター 多目的ホール
日 時	令和7年4月21日（月） 18：30～20：15
参加者数	49名

No.	項目	内容	市長の発言
5	公共交通	先程デマンド交通の話があったが、バスは平鹿病院の前で停まるがデマンドはどこに停まるのか。 （再質問） 2年程前にデマンドは平鹿病院の後ろのハッピー側に停まった。足腰痛くて病院に行く人が、また200m、300m歩かなければいけないというのは変だと思い、行政としてそんなことを進めているのかと不思議に思った。	・タクシーなのでバスの中継できる場所などに停まる。追加で料金をお支払いいただければ、目的地まで、病院の前でも行けると思う。 ・それぞれタクシー業界やバス業界など、いろいろな規則のもと長年その業界を守るために作られたシステムがある。交通業界、運輸業界の方々も国土交通省との決めごとがあり、お互い管理監督されるルールの中で自由に動ける限度がある。その間を市が取り持って何とか今の制度に落とし込んでいるので、利用者の皆様にしてみると、使い勝手が悪い、不便と思われることは承知している。今の業界のルールや法律のルールを変更しないままでは、今の状態はかなり限界に近いので、私も今の状況がベストとは思っていないので引き続き地方の声として訴えながら、改善には取り組んでまいりたいと思う。

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	大雄交流研修館 ふれあいホール
日 時	令和7年4月22日（火） 18：30～20：30
参加者数	54名

No.	項目	内容	市長の発言
1	県・市の機能合体	冒頭、温故知新という言葉を出されたが、温故知新とこれまでの行政経験を踏まえて、県にどのような働きかけをしていく所存なのか。	県に対しては今まで通りである。 各市町村によって置かれている状況は違うので、県の政策一本で全県が満遍なく良くなるかといえばそれは無理な話である。市町村は現場の最前線で細やかに機動力をもってやっていくべきで、県には県だからこそ持てるネットワークがある。横手市は横手市なりに農業、建設、商業について機能合体で、県職員と市職員をトレードして、人事的交流をしながら他の地域振興局のペースよりも一歩、二歩早い形で歩調を合わせるような仕組みができています。 また、予算を獲得できないことには事業を進められないので、新しい知事におかれては国とのパイプを強固にして、ロビー活動を展開していただき、何とか他の県よりも多めに予算を取り付けるよう、そこに期待したいと思う。 もちろん横手市も動かないわけではなく、これまでも予算を獲得する努力はしていた。
2	引きこもり	横手市には学校に行けない子どもたちが何人かいるが、かがやき教室を置いていただいている。人的支援も含めて感謝申し上げたい。 駅前にそのような人たちのための施設をという話があったが、引きこもりの中には心の悩みや心の病を抱えている人もいます。そのような方は駅前に行くことすら難しいので、ぜひ障害者の方にケースワーカーを派遣するのと同じように、カウンセラー等の派遣もご検討いただければと思う。	おっしゃるとおり、出ても来れないくらいの厳しい状況の人を何とかするというのは大事であり、そのような場合は関係するセクションの方が訪問するということもさせていただく。引きこもりになる理由も様々だと思うので、その道の専門家を雇い学校、福祉と連携しながらうまく機能させていくということで対応していきたいと考えている。
3	土曜保育	4月に孫が保育園に入園したが、給食も無料ということで手厚い保育をいただいていると思った。 しかし、土曜保育がないという話を伺い、妊婦であったり、専業主婦であっても主婦という仕事をしているわけであり、夫が不規則等の勤務のため定職に就けない場合もあると思うので、予算が許せば土曜保育も考えていただければと思う。	保育所によっては実行している場所もあるが、地域によっては需要が少なく、取り組んでいないケースもある。各保育園でいきなり土曜日も開園をお願いするというのは困ってしまう場合もあると思うので、需要についてアンケートでも取れればいいと思う。保育所経営者の集まり等もあるので、ご意見があったことはお伝えさせていただく。
4	組織内のコミュニケーション	行政の公平性や柔軟性について、どのような考えを持っているか。市の執行部の方々とのコミュニケーションはうまくいっているか。執行部の職員が市長に対してどの程度意見を言えているのかを聞きたい。	公平公正というのは常に意識しながら取り組むべきだと思う。全部を公平公正というのは到底無理で、優先順位をつけたり、取捨選択をしたりということはせざるを得ないということである。執行部とのコミュニケーションについて、各セクションごとに行政経営会議を行い、今年度の様々な取り組みに対してディスカッションするということで、意思の疎通や課題の共有をしている。 トップダウンについては、私が公約を掲げて市民の皆様と約束をして、当選させていただいた部分もあるので、そこは様々な意見があろうとも実現させなければいけないので、理解してほしいという形でトップダウンしているということもある。逆にボトムアップもあり、新しい事業や取り組みは若手職員でチームを作り意見を募り、それを政策として実現したりしている。

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	大雄交流研修館 ふれあいホール
日 時	令和7年4月22日（火） 18：30～20：30
参加者数	54名

No.	項目	内容	市長の発言
5	事務ミス	事務ミス等新聞でたくさん見るが、マスコミ対策はどうなっているか聞きたい。	なるべく隠さずマスコミに知らせるという姿勢である。 もしかしたら他地域で同じ事象が発生していても、横手市は丁寧にマスコミに知らせている方だと思う。そこは自負しているので、取り上げるか上げないかはマスコミ側の問題だと思っている。情報共有はしっかりやっていくという姿勢は貫いている。
6	スポーツ立市よこて宣言	この宣言はどこに対して行われたのか。横手市でスポーツをしている市民に対して恩恵が何もないし、逆に削られている気がする。スポーツ立市よこて宣言をされてから、地元、我々に対して何かあったか。	毎年シーリングをかけているので、昨年よりも予算が少し減ったというのは、スポーツに限らず、どのセクションでもそうになっている。 例えば、いきいきサロンや健康の駅事業など広く運動に取り組んでいただき、広く健康になっていただくということも、スポーツとして位置付けている。賑やか、華やかではないかもしれないが、福祉という意味合いでのスポーツもあるので、スポーツ立市として、全般的に取り組まさせていただいている。
7	軟式野球の天皇杯	今年軟式野球の天皇杯が横手市で行われる。ご理解とご協力をお願いしたい。	そこについては、相当な投資をさせていただいている。 野球に関わっている方であれば、横手市はスポーツを応援しているなど感じているはずだと思う。
8	人口減少	秋田県の人口は89万7千人という記事があったが、自然減、社会減で日本全体の人口は89万人減少している。つまり、毎年秋田県の人口ぐらい日本の人口が減っているというショッキングな話があった。	（質問者の感想）
9	学生の転出	高校の先生方は丁寧な進路指導をしてくださり、だいぶ県内企業への就職が多くなっていると思っている。 中学校に関して、野球で全県優勝・準優勝した学校の生徒が県外の強豪校に流れている実態がある。	県外に行くというのはその子の考えた末の決断なので、それを引き留めるとなると難しいが、本来あの監督に指導を受けたい、あのチームメイトと一緒にやりたい、あの先輩の背中を見て、という状況であればいいのかなと思う。 今、雄物川高校、平成高校、増田高校の統合の話もあるが、何とかよそに行かなくても地元の高校でステージが存在すれば、流出も防げるかなという思いもあるので、そこは県の教育委員会にも伝えて行きたいと思う。
10	Uターン	実際にUターンで戻ってきた方は何人位いるのか。	Uターンはしたいと登録した人が戻ってきた場合をカウントすると40人位だが、毎年Uターンにはカウントされない1,000人から1,500人程の、出と入りがある。 ここ最近では社会減がマイナス500人程だったが、昨年度は200人台で、私が今までみてきた中では一番少ない数字である。今後やはり職場がないとこの地域にいたくてもいれないという現状があるので、企業さんには奮起して、採用活動に勤しんでいただきたいと思うし、新しい人が必要だというような仕事をどんどん引き寄せてもらいたいと思う。

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	大雄交流研修館 ふれあいホール
日 時	令和7年4月22日（火） 18：30～20：30
参加者数	54名

No.	項目	内容	市長の発言
11	所得	北欧・欧米のモデルケースで人口密度に対しての一人当たりの所得が1,000万円から900万円ぐらいあって横手市も悲観することはないとお話があった。しかし、秋田県の一人当たりの収入の平均は380万円程で北欧レベルになるには2.5倍必要になるが、賃金を上げる方策など人口をいかに戻すのか考えていかなければいけないと思う。	これはいきなり1,000万円にという話ではなく、徐々に生産性を上げて所得を勝ち取っていくしかないという話である。合併時は107,000人いたのが、現在70,000人台だが、横手市の生産力は、工業も商業も農業も上がっているのので、一人当たりの生産額も上がっていると計算できる。 いきなり1,000万円にというのは厳しいが、底上げはしつつあるということ紹介し、消費される物品の単価も上がってきているので、横手市に人を引き寄せてお金を落としていただく取り組みを地道に考えていくことによって、経済の底上げを図っていきたいと思っている。
12	高齢化	横手市は65歳以上の方が働ける環境が49%あるとお話があった。2年ほど前に鍼灸マッサージ券の対象が65歳から75歳に上がったが、65歳以上の方が働ける環境ができたということであれば、65歳まで戻せとは言わないが、75歳よりは上げていただいて、働いたことに対する癒しがあった方がよい。 健康で暮らせる状態を作るのが市の役割だと私は思うので、もう少し福祉医療に予算を取っていただけないか。	福祉予算は高いままである。人口は減っているが、10万人いた時代と同等ぐらい福祉にお金をかけている。これは、相対的に一人当たりの福祉にかけている予算は増えているということである。 介護が必要であればあるほど、その方にかなりの予算が投入され、その分他の方に我慢をしていただいているという現状にある。 食生活や体操、運動などの習慣を身に付けていただき、自発的に健康を勝ち取りに行くという姿勢を市民の皆様にかけていただくための啓発、背中を押すということに力を割いてマンパワーを使っているところなので、自発的に健康を求める、勝ち取りに行く市民であってもらいたいし、そのような習慣を何とか持ってもらいたいと思う。
13	かまくら	市長はかまくら、観光誘客に力を入れて頑張っているが、かまくらについて、お城やお城のふもと周りを観光客が歩いた時に、枯れ木が沢山あり、倒木もしてたりするがどのように考えているか。	ここ最近はどこに行っても冬の横手をメインにPRさせていただいている。 雪を求めて来る人は雪国の歩行に慣れていないので、我々が細心の注意を払わなければいけないが、やはり枝が落ちていたりする。今年もお客様が来すぎて、危険だと思う瞬間があったので、安全の確保はどの観光に携わる人たちも意識してやるべきだと改めて思った。せっかくいらしていただいた方にマイナスな印象を与えかねないので、その注意は深く受け止め、今後安全第一で頑張っていきたいと思う。
14	秋田県選出衆議院議員	10月の衆議院選挙で秋田県選出の議員が6名選出されたが、陳情とかでいくとよく来てくれたというのか、自分が何とかするという感じなのかどんな感じが伺いたい。	陳情については本当にいろいろなお願いをさせていただいている。例えば、5年水張ルールの水田利活用の部分について陳情させていただいた際も、解消に向けて頑張るということで実際に変わる方向で、農水省が今見直しをしており、陳情の成果はあったと思う。 陳情は成功するしないがあるが、熱心に続けることによって必ず何らかの国からの反応をいただいて、横手市にとってプラスになるような予算を私が就任してから何千億はいただいているところである。
15	市民会館	物価高騰、資材高等、公約があるが、今後どのように進んでいくのか伺いたい。	毎週のように建設額が上がっており、さすがに倍の高騰となるとできないので、一旦凍結し、再度力を加えるべく建設資金を設け、何が何でも実現したいという思いでいる。議会でも議決をいただいたので、有利な財源を確保しながら実現に向けて仕切り直しをしたいと思っている。

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	大雄交流研修館 ふれあいホール
日 時	令和7年4月22日（火） 18：30～20：30
参加者数	54名

No.	項目	内容	市長の発言
16	温泉	さわらび、鶴ヶ池荘は壊すという話を聞いたが、本当にできるのか。ゆとりおんも譲渡先がなければやめるという話だが、健康増進の観点からいうと続けて欲しい設備的にも古くなって大変だと思っているが、今後市長はどう考えているのか。	さわらびについてはその通りであり、他の温泉についても、譲渡先が見つからない場合は廃止という決断をさせていただく。 大雄地区については、この公共施設が密集している辺りが、再度生まれ変わるような政策を立案できないかと今練っているところである。多世代で地域の方が利用されて喜んでいたけような施設を何とか模索できないかということで、皆様にも意見を頂戴しながら練っていく。 温泉については、市が関わる施設は3箇所と明言し、そのような方針で進めさせていただいている状況である。

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	雄物川庁舎 会議室
日 時	令和7年4月23日（水） 18：30～20：20
参加者数	41名

No.	項目	内容	市長の発言
1	温泉	横手市を若い人が結婚して子育てしていける場所にしていくことが大切だと思う。 えがおの丘は現在休業しているが、雄物川地域にとって一つのシンボル・誇りである。高齢者の楽しみのみならず、実際は若い人や子どももくるし、家族でもくる。だから老人だけでなく、若い人たちにとってもあのような場所は必要だと思う。 （再質問） 先日、横手市の予算書が配られたが、一般会計は一千億円あると書かれており、温泉は18年で46億円なので、少し数字を膨らませるようなことをしている気がする。	えがおの丘については、ご案内のとおり現在休業中であり、いくら頑張っても経営改善に至らず、これまで運営をいただいた企業さんも撤退というような状況になっている。現在は、横手市では温泉は3つという方針を掲げ、えがおの丘については、役目を終えさせていただく決断をさせていただいた。 おっしゃるとおり憩いの場や元気をもたらす空間は私も必要だと思っていて、それが温泉なのか、別の手段なのかということである。温泉を良好な運営に足る維持管理をするとなると、100億円位の一般財源を投入することにもなると思う。 限られた経営資源を別の手段で前向きに使っていきたいと思う。 ・46億円というのも合併後の年間換算だと2億円程で、非常に貴重である。 年に2億円自由に使える自主財源があればそれを10年間道路舗装にかければ相当立派な道路事情にもなる。限られた原資を今の現状を打破するために投入してまいりたいと思うので、苦渋の決断をさせていただいた。
2	住民サービス	日本の人口推計は前年同月比で最大の落ち込みであり、北東北3県の中では秋田県の減少率が最も高い。 経済活動の縮小、租税収入の減少から住民サービスの低下に繋がる問題と考える。 この人口減少を逆手にとった先進的な取り組みがなされればいいと考える。AIを活用して、市政の政策支援をしている自治体もある。	生成AIについては、横手市も活用させていただき、情報収集・分析等に活用させていただいている。事務作業についても、単調な作業は自動化するなど、デジタル技術を有効に活用しながら取り組んでいる。 人口減少は良くないと思うが、人口が少ないのは悪くないと思う。誰も働かない1億人よりしっかり稼ぐ100万人の方がよいという表現だといい。 もっと雇用の場を増やし、若い方々が定着し、他の地域からも就職したいと横手に来ていただけるくらい、力強い産業を育成していけないといけないと思っている。
3	所得	若い人に話を聞くと、所帯を持って暮らしをするための収入が今の稼ぎでは間に合わないという。都市部と比較すると横手市の収入は7割程度で、就職する人も満足な気持ちはない。この状態では、所帯を持って暮らしていくことはできないと考える。	一定以上の所得がないと結婚、子育てをするという意思につながらないというのは、まさにその通りである。夫婦がしっかり所得を獲得できて、子どもも育てられるという自信がつくような待遇、環境が大事だと思っている。 現在、人口減少が故に人手不足で、良い待遇を提供できない会社は淘汰され、廃業ということもあると思う。つまましては、良い待遇ができる企業が残って、賃金の最低水準が底上げされていくという現実はあると思っているので、人が少ないという社会情勢をデメリットで受け止めるのではなく、雇用されている側にとっては所得が上がるチャンスかもしれない。 人が少ないことも起因して、企業、経営者の皆様の経営は苦しいと思うが頑張っていたきたいと思う。
4	少子化	横手地域では女性がどんどん転出している。会社を誘致しているという話もあったが、みんな男性スタイルの企業で、女性が手を伸ばしやすい仕事は精密工業であり、横手にはない。 女性を受けよう会社も考えてもらわないと、相対的に人も減り、税収もへり、我々の生活インフラも廃れていくと考える。	かつては男性型の職場というイメージがあったと思うが、特に工業団地にきていただいている企業さんは女性の活躍を意識して労働環境を整えている。しっかり規則を守り、常識を理解できる方であれば男女関係なく活躍できる会社が存在していることをご紹介させていただく。 男性と女性でほぼ同じ人数進学していくが、横手に戻ってきてくださるのはほとんど男性で、女性は都会に引き寄せられている。都会に都会チックな部分で張り合っても勝てないので、女性を引き寄せるような魅力を確立していきたいと思う。

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	雄物川庁舎 会議室
日 時	令和7年4月23日（水） 18：30～20：20
参加者数	41名

No.	項目	内容	市長の発言
5	SNSの活用	娘もInstagram等をよく見ており、動画による影響はかなり大きいと感じている。 横手市でもSNSにいろいろ挑戦しているのを拝見しているが、ぜひもっと市長の動画も上げてほしいと思った。	動画はやっているが、私と逆の意見の方もいるので示唆に富むような発言はしていない。あまり私が露出し続けるのも苦情がきいてしまうので、広報でも気を使って動画を作ってくれている。私の話が聞きたい場合は、今後もこのような機会を作っていくのでそちらに来ていただけたらと思う。
6	女性の活躍	結婚をして子どもを産むとどうしても収入が落ちる機会がある。既にあるのであれば申し訳ないが、育児休暇中の補填があればよいと思う。	横手市も男女とも育児休暇の取得は進めているが、満額給料は出していない。 若い方々の中には福利厚生をくまなく見て、職を選ぶという方も増えているので、育児休暇や子育て中の家庭にどれだけ支援をできるかというのは、採用競争に勝つには見逃せない要素だと思うので、そこは企業の努力に期待をしたい。 市としても応援できるのであれば、応援したいので、今後の課題として受け止めさせていただく。
7	温泉	限られた財源の中で本当に苦渋の決断であることは理解できる。市長は堅実にいろいろ取り組んでおられるが、もっと目玉になるようなものがあるのであれば、もっと発信していただきたい。	えがおの丘については、私の家族も利用しており、家族の中ですら賛同者がいなかったが、そこは行政の長としての決断でやらせていただいている。
8	公共交通	前回参加時に空のバスを走らせるより、高校生や中学生を無料で乗せてあげて、経済を回した方がよいという意見があった。とてもいい案と感じており、その話は議論に上がっているのか、何か調査されているのか教えていただきたい。	本当に誰も乗らない路線バスに関しては、撤退されている状況である。 交通弱者を守るためにタクシーと循環バスの融合でデマンド交通というシステムも作らせていただいている。
9	多機能型低温倉庫	この倉庫に関して、有料で貸してもらえれば農家さんの収益アップにも繋がると考えるのがいがかか。	JA秋田ふるさとによる運営なので、JAの販路以外の物を入れるというのは難しいと思う。現在学校給食の自給率を地域産の比率を上げていく取り組みを市で行っており、冬は野菜など育てられないので、調理加工し低温で保存するスペースは使わせていただいている。これは商売抜きにJA秋田ふるさとさんが支援をしてくださっているという形で行っている。
10	補助金	国の政策で、外国人労働者を雇うと企業に補助金が出ると聞いた。そのようなところに補助金が出せるのであれば、女性の育児休暇とかそのようなところにも補助金を出せるのではないか。	横手市ではそのような補助金を出していない。 私はなるべく日本の生産は日本人で行うべきという思想を軸にしているが、もちろん日本人でも外国で働く方がいる。グローバルな時代で、人の往来に防衛線を張るというのは結構難しいと思っている。 秋田県は外国人が一番少ない県だが、中には存在しないと困るが労働確保が困難な業種などもあるので、そこに従事したい日本人がいない場合はやむを得ない部分もあるかと思う。ただし、主権は国民にあるのは当然なので、そこはしっかり意識して線引きもして対応していくべきだと思う。
11	再生可能エネルギー	他県で太陽光パネルを推進していて、台風等の災害で壊れて中から出た液体が田んぼに流れ込み、お米が出荷できないという話を聞いた。秋田県は米どころであり、太陽光パネルが壊れて地中にその液体が入り込んで、作物に影響が出れば秋田県は一気に終わってしまう。	太陽光については、私も同感であり、風で飛ばされて水浸しになり感電するなどの危険性もある。雪国横手は、太陽光発電が全国47位であり、これはワーストをポジティブに捉えるべきなのかもしれない。横手市は思いっきり太陽光を推奨しているわけではないということで、ご理解をいただければと思う。

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	金沢地区交流センター 洋室I
日 時	令和7年4月25日（金） 18：30～20：00
参加者数	23名

No.	項目	内容	市長の発言
1	13号線 拡幅工事	13号線の拡幅は金沢の方々が長年待ち続けた事業であるが、市長のわかる範囲で大体何年頃に完成する予想か。	これはやはり国の予算次第な部分がある。横手市としても、自分の持っているパイプの範囲で精力的に予算獲得のため頑張る。ここは本当に危ない道路だと思っており、バイパスができれば本当に用事がある人しか通らなくなるので、危なさは半減し、東西に村が道路で分断されてしまっている部分も行き来がしやすくなると思う。引き続き頑張りたいと思う。
2	秋田県 知事	鈴木新知事と高橋市長とタッグを組んで、秋田県を盛り上げていくんだろうと思うが、市長から改めて知事に期待するところを聞きたい。	佐竹氏は全国市長会の会長を務めていたこともあり、自治体の長という肩書では通常会えないような総理大臣などに会うことができていた。そのパイプができるということが強く、横手市が恩恵を受けるであろう国費の事業も6,000億円程、獲得している。 新知事もまだ一年目であり、当然知事一人では限界もあるので、県内首長も一緒に頑張っていく。相当頑張ると思うので、期待したい。

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	十文字地区交流センター 交流ホール
日 時	令和7年4月26日（土） 10：00～12：00
参加者数	30名

No.	項目	内容	市長の発言
1		質問なし	

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	Ao-na スタジオ「NEMATTEかま蔵」
日 時	令和7年4月29日（火） 10：30～12：00
参加者数	31名

No.	項目	内容	市長の発言
1	観光振興	横手市は横手城がシンボルで、横手城の前にある杉の木が高くなり景観が非常に悪くなってきている。また、武者だまりから横手市を見下ろすと、下の方にある杉の木が高くなっている。これを伐採して、例えば函館のように夜景が見えるようにすると、もっと通年で観光客が横手に来ると思う。	一時期地すべりではなかったが土が滑ったような感じになり保守していた時期があった。横手城前の崖は急傾斜地に指定されており、多少木があることによって、地面が安定する部分もあるので、バサバサ切るわけにはいかない場所である。多くの方があの木がなければ見晴らしが良くなるというのは感じているはずなので、地面の状況と相談しながら進めたいと思う。
2	温故知新	各地域に郷土のために尽くしてくれた人たちがいるはずなので、各公民館が住民の人に聞いて、小学生などに伝えていくことが大切だと思う。 そのような取り組みをしている自治体が既にあるので、温故知新で過去を知らないことには、未来をつくることもできないと思う。	人類はずっと次の世代が今よりも良くなるようにと取り組んできたと思うし、現在、幸福度が高い空間・環境で暮らせていただいているのは、天国に召されている何百万人の大先輩のおかげである。調べると各地域に礎になった素晴らしい方々が絶対いるので、そのような方々を地区交流センターや会館で紹介し、自分のことだけ満足すればいいのではなくて、社会のために頑張らないと次の世代が苦勞するんだなと分かってくれる若者が沢山いると、横手市はずっと未来でも発展し続けれると思う。 各地域の偉人を紹介するということは既に指示しているので、時間がかかるかもしれないがやらせていただく。
3	人口減少	人口推移のグラフがあったが、現在の横手市の人口が約8万人程で令和22年、15年後には大体6万人になるという数字がでていた。この数字は正確なのか、甘くみたのか、きつくみたのかをお尋ねしたい。 （再質問） 今年横手市内で産まれた子どもが300人を割っているということで、15年後の15歳以下の子どもは300人かける15より少なくなる。65歳以上の平均年齢が70歳、80歳となっても人口は減っていくが、この数字自体が2万人の減という形で考えていいのか。	・これは国立社会保障・人口問題研究所が出している推計値であり、何も対応しなければほぼ正確にこの通りになる。横手の人口は、昔の推計値よりはいい方向にいつているが、減っていることは事実である。 ・10年程前は市民会館が満員になるくらいの成人式だったが、今は満員にならなくなってきている。昨年の出生率は269人程度であり、全員成人式に参加したと仮定しても4分の1しか埋まらない状況である。20年先は一瞬で瞬きしていればきってしまうので、これはこのままにはしておけないと皆様に分かってもらおうとしても、暮らしが激変するわけではないので深刻な問題だとほとんど思ってもらえない。 ・昔は秋田県にいないで県外に行きなさいという方針の学校もあったが、最近はその方針が秋田県を絶滅させてしまうと気が付いたようなので、これから変わっていくと思う。
4	横手のPR	横手ブランドというものをどんなとんがりを一番目立たせれば、地元にいる我々も含めた市民が誇りに思えて、外にいる人たちがすごいなと魅力を感じるのか。今でも沢山あると思うが、横手市の特化するべきとんがり、ブランドはどんなものに期待を持てるのかお聞きしたい。	・そもそも際立ったとんがり方はしているが、とんがっている部分を肯定的に受け止められない現実がある。例えば、雪について、ここで暮らしている人にすれば困難以外の何物でもなく、疎ましいという部分もあると思うが、これだけ人が集積している場所でこれくらい雪が降るとするのは極めて稀で、外の方が欲しくても勝ち取れない自然環境なので、これは本当に強みにしていかなければいけないと思っている。 ・人間関係が濃すぎるといふ部分もある。都会のように一回人間関係が希薄になると取り戻せないと思う。本来の日本の風習を見なければ、横手にきてはいいかかと紹介し、日本に何十回も来ているリピーターの方は別の日本も見たいと思うので、そういうコアなファンの方を引き寄せるということもありかと思う。

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	増田地区多目的研修センター 多目的ホール
日 時	令和7年4月30日（水） 18：30～21：00
参加者数	60名

No.	項目	内容	市長の発言
1	農業者に対する支援	自分は農業を行っているが、昨年、横手市独自のドローンの補助金を受けさせていただき、感謝申し上げます。農林省、県でも補助率がいい補助制度があるが、横手市は横手市として、国、県が目届かないところに補助してくれるとすごく助かる。	横手市では、全ての農家の方というわけではないが、他の自治体よりは幅広い農家のスタイルに合った補助を作っている。予算には限りがあるが、限られた予算の中で国や県の制度には該当しなかった農家に対しても市では該当するように考えている。
2	スポーツ	例えば、増田にバスケットボール、雄物川にバレーボールなど、横手に体育館を作って全部集めるのではなく、人口の集約も必要かもしれないが、今の地域を維持するということも必要ではないかと思う。	一流のプロ興行となると、屋内スポーツにおいても5,000人の収容の器がないと成り立たない。新しく作っている体育館は5,000人を収容できる体育館である。各地域に分散してというのはその通りだが、あの規模の体育館を分散して増田、雄物川にもというのは無理な話である。一か所作るとすれば、人口が一番集積していて、交通の利便性も最も良い場所ということである。高校生の大会レベルであれば、もしかしたら可能かもしれないが、プロとなると今は厳しいと認識している。
3	病院	・以前歩けなくなって、横手病院に電話したところ、地元の整形で診てくださいと言われた。診てもらったら脳が原因であった。もっと患者に寄り添った対応をしてほしい。今度は、母が歩けなくなり病院に行ったら、あなたみたいな症状は救急車呼ぶべきだ。」と言われた。昔の経験があって杖ついてでも歩ければ救急車を利用しない方がいいのかと思っていたが、その考えが共通でないなら結局救急車を使わざるを得ない。 ・看護師にアパート借りるための補助などあればもう少し女性も帰ってくるのではないかと思う。	本当に不自由で面白くない思いをさせてしまったと思う。現在、どの公立病院、大型病院においても、地方は経営が非常に困難という状況で、何とか赤字を解消するためには高度な診療をするために、医師一人当たりの時間をかけたいという病院側の経営の意思というものもある。病院の受付の電話先は医師ではないはずで、重篤な患者さんと判断できないと受付られないとか、想像の域を出ないが、マニュアル通りの答えを担当がしてしまったのかなと思う。その部分については、本当に辛い思いをさせてしまったと申し訳なく思う。ただ、病院側は病院側で、今まで通りの診療の時間配分を続けていると赤字がもっと膨らんでしまうので、廃業という究極の選択にならないように病院経営ももがいている最中である。とにかく、ご迷惑をおかけしてしまった部分については、大変申し訳ないと思う。
4	除雪作業員	横手市は事故なく除雪作業をするために二人体制で行っているが、片方が寝ていて、運転手は片手運転をしている。冬季だけの臨時公務員と言えど公務員が寝て給料をもらっているという話になりかねない。民間で寝ている人にお金を払うなんてところはないので、そういうところはしっかりしてもらいたいと思う。	寝ているような方がいるとすれば、それは市として認めているわけではない。二人乗車は安全を確保するために行き着いた手段であり、人件費等を考えれば一人でも済む話である。より一層安全に努めるという姿勢を示すべく二人体制にしており、決して二人いるから寝てもいいという趣旨のものではないので、そこは善処するためにもその方を教えていただければ、しっかり嚴重注意させていただく。
5	森林の保全	市長が会長になっている横手市森林協議会が北都銀行とタッグを組んで二酸化炭素固定能力の削減に取り組まれていると新聞で目にしたが、これは非常に横手の売りになると思う。一方で、真人山に行くとも森林が荒れている状態であるので、行政として森林の公益的機能を一般市民にも啓発できるような、企画・事業を進めていただけたらと思う。	二酸化炭素削減については、本日（4月30日）も秋田銀行さんと協定を結ばさせていただいた。そのような取り組みをPRすること、多くの方に分かってもらうことは大事だと思うので、本当は環境を守っていくということに力を入れたいと思っている。しかし、それどころではない課題、社会問題も多く、そちらを何とかするという部分に今は力点を置いている。 なかなか現代は、経済性や効率性の部分で山の物を生かして、我々の生活に取り入れるというといことができていないが、何かのきっかけにそういう要素もあるということを問題提起させていただきたい。

令和7年度市政懇談会 記録

会 場	増田地区多目的研修センター 多目的ホール
日 時	令和7年4月30日（水） 18：30～21：00
参加者数	60名

No.	項目	内容	市長の発言
6	真人公園の桜	真人公園は秋田県で3箇所しか選ばれていない日本の桜名所100選に選ばれた場所であるが、桜の木が年老いて、朽ち果てているものもある。果たして将来に桜を繋いでいく対策が講じられているのかと思った。桜の植栽などの対策が早急に必要だと思っているが、民間団体や個人が勝手に植樹するわけにもいけないと思う。都市公園条例に植樹は市長が都市公園の管理上、特に必要があると認めた場合と記載があったので、民間団体、個人の植栽の申請に対し、市長が承認いただければ、木に対する思いを持っている地元の方々も元気づくのではないかなと思った。	管理が行き届いていない状況を反省し、受け止めさせていただく。 弘前公園でももう朽ちてもおかしくない樹齢だが、多くの方々の協力で管理し、相当生き延びて見事に立派な桜を咲かせ続けている。これは見習いたいと思っている。民間のそのような機運も応援したいと思っているし、力を借りていかなと横手管内の桜を全て市役所でいうのもかなり難しいと思う。 真人公園のみならず、あちこちに同じような状態が散見されているのは知っているので、一斉にとはいかないがしっかりとした管理は意識していけないといけないと思っている。
7	ミニバン三平カー運行	狹半内地域も高齢化率52％程である。以前からミニバン（三平カー）が走っているが、若い人から話を聞くと、親の面倒を見て病院や外に買い物に行くことは大変だったが、ミニバンが運行してから負担が減ったと言われる。他の地域も地域の足がなく若い人が困っていることもあると思うので、少し考えていただければと思う。	今後も引き続きみんな健康で、共助組織のパワーを持続していただきたいと思う。 狹半内上畑近辺にもかつての規模は（上畑温泉施設）無理でも、何とかあの場所に光が灯るようにするにはどうすればいいかというのを内部で議論しているので、しっかり考えてはいるということをお伝えさせていただく。